

令和7年度 愛川高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

【日 時】 書面開催 令和7年12月19日 開催通知発出 令和8年1月16日 意見等返信期限

【委 員】 石田 裕昭（神奈川工科大学 経営管理本部 企画入学課 担当理事）

今井 信一（桜美林大学 高大接続アドバイザー）

飯田 哲昭（愛川町教育委員会 指導室長兼教育開発センター所長）

大石 進（地域学校協働本部「明日楓会」会長）

林 繁（愛川高等学校同窓会長）

杉山 治久（神奈川県立愛川高等学校 校長）

橋崎 友聡（愛川高等学校 P T A 会長）

（事務局）高間 明浩（副校長）、坂野 敦子（教頭）、矢崎 文治（書記）

【会 場】 書面開催

【議 事】

※学校評価報告書（中間評価）に係る学校運営協議会委員の意見等

1 教育課程・学習指導

- 1学期における生徒の肯定的な授業評価が83%に達していることを高く評価する。先生方の日頃の活動の成果だと思い感謝する。今後はさらにコミュニケーション豊かで効果的な授業を創り出していただくとともに、もう一つの柱となっている学習内容の定着を一層高めていただける授業実践を希望する。
- 達成状況については、具体的な数値目標が示されているので判断しやすい。気になったのは端末を持っていない生徒がいることによる円滑な授業展開ができていない点。貸出が可能なのか不明だが速やかな対応が必要ではないか。
- 目標を達成できたことは評価できる。「生徒一人ひとりに対する丁寧な学習指導」が愛川高校のよいところだと思う。今後も頑張ってもらいたい。

2 生徒指導・支援

- 問題行動が昨年同時期から半減した点についても、先生方の努力が伺われた。先生方の負担を感じつつも、よりよい落ち着いた学習環境のために指導を継続いただきたい。今後、一定の成果のもと巡回指導等が必要なくなり、こうした時間が先生方の教材研究等に使える日が遠からず来ることを期待する。
- 年間遅刻回数60回の生徒が20名程度いる点について、過去のケースから、このような生徒の将来の進路はどのようになったのかを知りたい。また、遅刻回数も減少する可能性があり、問題行動発生件数が半減していることから先生方が進めている基本的生活習慣の確立及び規範意識の向上に向けた取組は実を結んでいると評価できる。
- 数値目標が高すぎるのではと心配したが、達成できそうでよかった。
- 愛川高校の教員がビブスを着用して生徒の下校指導をしている場面を時々見かける。大変だと思うが粘り強い指導が望まれる。

3 進路指導・支援

- 高校が生徒の学外活動を積極的に支援している点が評価できる。生徒に自信をつけさせる意味

でも数多くの生徒に学外活動の機会を与える工夫をお願いしたい。生徒を集めやすい企画、集めにくい企画が過去の実績から見えているかと思う。先生方の負担感も踏まえながら、よりよい学校外活動の提供について、検証と改善、見直しや取捨選択することにも必要な時期に来ているのではないかと感じる。

- 参加生徒へのアンケートの結果が書かれていないが、どうだったのか知りたい。
- 愛川町子ども議会、消防署等の行事に延べ 41 名の生徒が参加したことは立派だと思う。

4 地域等との協働

- 愛川高校の伝統である和太鼓や防災訓練を通して、中学生との交流や地域との交流が一層盛んになる傾向を頼もしく思う。交流に参加する生徒が増えていることにも期待する。
- 12 月 20 日（土）に神奈川工科大学で高大連携講座高校生発表会を開催し、高校 10 校が参加した。愛川高校も 3 人のチームが英語による発表を行い、見事最優秀賞に選ばれた。このような活躍は生徒の自信につながるものと思う。
- 地域防災部門に延べ 52 名の生徒が参加しているので目標は達成されたと理解した。今後も多くの生徒の参加を期待したい。
- 1 月 11 日の愛川町一周駅伝で和太鼓部の演奏を拝聴した。イベントが盛り上がって素晴らしかった。今後も活躍してほしい。

5 学校管理・学校運営

- 校長先生の指導のもとで教職員の働き方改革にも継続して取り組んでいただき、愛川高校を地域で一層愛される学校へ、そして教職員にとって魅力ある職場へと発展させていただきたいと願う。
- 不祥事防止の取組は、これで終わりというゴールはないので、継続した取組をお願いしたい。
- 評価の観点は何%なのに、達成状況は 45 名となっている。これではよくわからないので、%で示すべきではないか。すべての項目に言えることだが、評価の観点と達成状況は「対」なので、書き方に注意が必要だと思う。

以上